手紙No.49

手紙No.49

1881年8月5日、シムラに向かう途中のウンバラでKHから受け取った。

（オルコットがセイロンにいる間、HPBは7月22日にボンベイを出発し、シムラのヒュームを訪ねた。8月初旬、A・P・シネットがゲストとしてヒューム宅に到着。21日、ヒュームが会長とA・P・シネットが副会長、ロス・スコットが書記を務める「シムラ折衷神智学協会」が結成された）。

　今、家に帰りました。返事をする気にもならないほど多くの手紙を受け取りました、あなたのを除いて。これは簡単なことのように思えますが、ウパニシャッドの“Sokamayata

bahuh syam prajaye yeti“に描かれている神と似ていることを思い出せば、実際はそうでもないです。いずれにせよ、知識欲は決して罪とはみなされず、そのような質問にはいつでもお答えしますよ。それは答えることができます。

　確かに、私たちの文通は多くの人のために成立したのですから、あなたがそこに含まれる教えや考えを「エッセイの形で」、オカルト哲学的な創造観だけでなく他のあらゆる問題についても再構成しない限り、世界全体にとってほとんど利益にならないだろうと、私は考えています。「未来の本」を書き始めるのは早ければ早いほどよいです。なぜなら、予期せぬ出来事に対して誰も答えられないです。私たちの文通は、最もよく知る人たちからの妨害によって、突然断絶することがあります。彼らの心は、ご存知のように、私たちの多くにとって封印された本であり、どんなに「魔術技法」を使っても開くことはできません。しかし、さらなる「考察のための助け」は、やがてもたらされるでしょう。そして、私が説明することを許されたわずかな事柄は、エリファス・レヴィの“Haute Magie“よりも包括的であることを、私は願っています。エリファス・レヴィの“Haute Magie“（邦訳『魔術師』）は、未熟な読者のために書かれたものではないので、あなたが曇りを感じるのも無理はありません。エリファスは薔薇十字団の写本（現在、ヨーロッパでは3枚に減っている）から研究しました。ローゼンクランツ（訳注1）はアジアから帰国後、聖職者の復讐から弟子を守るために、半キリスト教的な装いをしました。人はその鍵を持っていなければならず、その鍵はそれ自体が科学であらねばならないのです。ローゼンクランツは口頭で教えました。サンジェルマンは優れた教義を数字で記録し、彼の唯一の暗号化された原稿は、彼の忠実な友人であり後援者である慈悲深いドイツの王子のもとに残されました。彼は自宅で、その王子の前で最後の死を迎えました。「失敗だ、大失敗だ！」と、「数字」と「数」についてエリファスは、ピタゴラス学派の教義を知っている人たちに語りかけます。そうです。そのうちのいくつかは、すべての哲学を要約し、すべての教義を含んでいます。アイザック・ニュートンはそれらをよく理解していましたが、彼自身の名声のために非常に慎重にその知識を隠し、『サタデー・レビュー』の執筆者やその同時代の人々にとっては非常に残念なことでした。あなたはそれを賞賛しているようですが、私はそうではありません。しかし、文学的な観点からは、最近私が目にしたような進歩のない独断的な考えを述べる新聞は、より寛容な会員の中での地位を失うべきでしょう。科学者は、現代魔術や精霊術などの「九日間の奇蹟」の発表会では「よい観察者になってはくれない」と、この新聞は考えています。これは確かにそうでなくて、「自然界の限界をよく知っている（！！）彼らは、見たもの、あるいは見たと思ったものが、できるはずがないと仮定することから始めるべきで、次に誤りを探すべきである……」などと付け加えているのです。血液の循環、電信、鉄道、汽船の議論の繰り返し。彼らは「自然の限界」を知っているのです！ああ、驕りと精神的無明の世紀よ。そして我々は、先人がメスメルを迫害し、サンジェルマンに詐欺師の烙印を押した、この学問の亡者たちの間にあるロンドンに招かれたのです！！彼らにとっては、自然界ではまだすべてが秘密なのです。人間については、骨格と形態しか知らないのです。彼らが「感覚」と呼ぶ目に見えない使者が、人間の知覚に至るまでに通過する経路の輪郭を描くことはほとんどできません。彼らの学校の科学は疑いと推測の温床であり、自らの詭弁のためにのみ教え、その萎縮と真実に対する軽蔑、誤った道徳と教条主義に感染し、その代表者は「自然の限界」を知っていると自慢しているでしょう。私はあなたがこの世代に属し、あなたの「近代科学」を賞賛していることを忘れていました。彼女（自然）の命令やお告げは、ローマ法王と同じレベルです。そう、『サタデー・レビュー』は、確かに私たちを簡単に見逃してくれました。しかし、「スピリチュアリスト」は違います。かわいそうに、この弱小新聞社。あなたはこの新聞に大打撃を与えました。霊媒の足場を失い、東洋の知識よりも英国の熟達者（アデプト）の優位性を求めて死闘を繰り広げているのです。私はその内密の叫びを耳にしそうです。「私たちスピリチュアリストが間違った箱の中にいることが明らかになったならば、神智学徒のあなたたちも同じです」。偉大な「アデプト」、恐るべきJ.K.は確かに危険な敵であり、私たちの「菩薩たち」はいつかその強大な学問の前に深い無知を告白しなければならないだろうと私は恐れています。「ゴータマ・ブッダやイエス・キリストのような真のアデプトは、自らを神秘に包むことなく、公然と来て教えた」と、この神託は語っている。もしそうだとしたら、前者の謙虚な信奉者である私たちには朗報です。ゴータマは「神の教師」であり、同時に「神の使い」でもある、という！(Spiritualist, July 8, p. 21, 2 段落目参照) ブッダは今や、2500年前に尊い知恵であるSankia K'houtchooサンキア・クフーチョーが幕屋を公開し、その空虚さを示すことによって退位させた者のメッセンジャーとなったのです！ あのロンドン子はどこで仏教を学んだのでしょうね？インドのオカルト知識“The Lotus of the Good Law"とAtma Boddha"をユダヤのカバリズムに照らして酷評しているロンドンの至宝の人と一緒に学ぶよう、あなたの友人のC.C.マッシーに、本当に助言すべきでしょう。

（訳注1）ローゼンクランツ(Shakespeare, Hamlet に登場する王の廷臣で，Hamlet の旧友；Guildenstern と共にClaudius の命を受けて Hamlet を殺そうとしたが，見破られ，2 人とも Hamlet の身代わりに殺される)．

私が「新聞の下品な告知にイラつく」？ もちろん、そんなことはありません。しかし、J.K.の冒涜的な発言には、少し怒りを覚えます。このうぬぼれ屋には、「ここまでが汝の限界だ、それ以上は無理だ」と答えたい気分でした。この一節を見せるとホビルガンは、老いた頬に涙が流れ落ちるまで笑いました。私もそうしたいものです。「老婆」がこれを読むと、シムラで杉が一本か二本傷むことになるでしょう。しかし、これらの通知は数年後にあなたにとって思いがけなく貴重なものとなるかもしれないので、むしろあなた自身が保存すべきです。

　許可なく口外しないことを厳粛に誓うという申し出には、今のところ何も答えられません。というのも、私たち独自の形式の誓約を外部の者に誓うというのは前代未聞のことであり、私の上司の意見では、他のものは通用しないでしょうから。私たち双方にとって不幸なことに、かつて一度、いや、二度ほど、あなたは記録に残る表現を使ったことがあり、3日前、あなたのために特権を嘆願したとき、とても思いがけず、その表現が私の前に引き出されたと言わざるを得ません。その言葉を繰り返し聞き、記録されているのを見たとき、私は、私が尊敬してやまない彼の手によって下された、さらなる予期せぬ運命の波に、できる限り優しく頬をそらすしかなかったのです。私には残酷に思えましたが、それは正しいことです。あなたはシムラで次のような言葉を発しました。「私は神智学協会の会員ですが、決して神智学徒ではありません」。そうあなたは言いました。私たちは、これまでと同じ遅い速度で旅をするか、あるいは一旦立ち止まって、手紙の末尾に「終わり」と書くか、どちらかを選ばなければなりません。前者を選り好んでいただければと思います。

　この話題になったら、ロンドンの友人たちに、何度も何度も聞かされても忘れがちな、健全な真理を印象付けてください。オカルト科学は、秘密が書面や口語による通信で突然に伝達されるようなものではありません。そうであれば、「兄弟」がすべきことは、文法と同じように学校で教えられるような術の手引書を出版することでしょう。我々が自分自身と自分の力を喜んで神秘に包むというのは、人々の共通の誤解であり、我々は知識を自分自身の中に留めておきたいと願い、自らの意志でそれを「望んで、意図的に」通信することを拒否しているのです。真実は、「新参者」が、その資格と適性がある「啓示の光」の段階に必要な状態に到達するまでは、「秘密」のすべてとは言わないまでも、そのほとんどが伝えられないということです。受容力は、教えたいという欲求と同程度でなければなりません。啓示の光は内面から来るものでなければなりません。それまでは、どんな呪文も、どんな器具も、どんな形而上学的な講義も議論も、どんな自己犠牲的な懺悔も、それを与えることはできないのです。これらはすべて目的のための手段に過ぎず、私たちにできることは、必要な目的に資することが長年の経験によって判明しているような手段の使用を指示することだけです。そして、このことは何千年もの間、秘密でも何でもなかったのです。断食、瞑想、思考、言葉、行為の貞節、自然自身が情報を求めてやってくる人に語りかけるための一定期間の沈黙、動物の情熱や衝動の制御、意思の完全な無私性、生理学的目的のための特定の香や燻蒸の使用などは、西洋ではプラトンやイアンブリヒウスの時代から、またインドのリシたちのはるかに古い時代から手段として発表されてきたものである。これらの方法を個々の気質にどのように適合させるかは、もちろん、彼自身の実験と師匠やグル（導師）の注意深い配慮の問題です。このようなことは実際、彼の訓練（弟子道）のコースの一部であり、彼のグルやイニシエーターは、彼（弟子）の経験と意志の力で助けることができますが、最後の、そして最高のイニシエーションまでそれ以上のことはできません。

また、弟子のために入門者がどれほどの不自由さ、いや苦しみと被害を受けるかを想像する受験者は少ないと思います。新参者とアデプトの身体的、道徳的、知的な条件は、誰でも簡単に理解できるように、大きく異なります。したがってそれぞれの場合、指導者は自分の条件を弟子の条件に合わせなければならず、成功するためには、訓練中の対象者と完全に一致させなければならず、その負担は大変なものです。そして、アデプトの力が大きくなればなるほど、外界の発散物、つまり我々があれほど恐れる利己的で残忍な群衆の獣的発散物に飽和している俗人の本性に共感できなくなるため、その世界から長く離れ、彼自身が純粋であればあるほど、自ら課す課題が難しくなるのです。そして、知識は徐々にしか通信することができません。そして、最高の秘密のいくつかは、たとえあなたのよく準備された耳に実際に系統立てて話されたとしても、あなたにとっては非常識なたわごとにしか聞こえないかもしれないのです。これが、私たちが遠慮してしまう本当の原因なのです。

だから、人々はしばしば、二年、三年、あるいはもっと長い間、そのために苦労してきたのに、新しい知識が伝わってこない、ともっともらしい理屈をこねて文句を言うの

です。本当に学びたい人は、我々が行くことを求めたり期待したりするのではなく、すべてを放棄して我々のところに来るようにしよう。しかし、あなたの世界ではどうしたらいいのでしょうか、雰囲気は？「18日の朝、悲しい気持ちで目が覚めました」。そうなのか？まあ、まあ、忍耐です、私の善良な兄弟よ、忍耐です。何かが起こりましたが、あなたはその意識を保っていません。しかし、今はこれを放置しておくことにしましょう。これ以上何ができるでしょうか。私は、あなたがまだ言葉を持たない考えを、どのように表現したらよいのでしょうか。あなたのように繊細で感受性豊かな頭脳は、他の人よりも多くのものを得ますが、たとえ少し余分に得たとしても、浮かんでくる考えを定着させる言葉やイメージがないため、失われてしまいます。おそらく、いや、間違いなく、あなたは今私が言っていることを理解していないでしょう。いつかわかる日が来るでしょうから、辛抱強く待ちましょう。人がまだ受け取るのに適した知識以上のものを与えることは、危険な実験です。突然、日常を超えた事実を伝達することは多くの場合、初心者にとってだけでなく、その人に直接関わる人々にとっても致命的なことなのです。地獄のような機械や、弾の入った拳銃を、そんなものを見たこともない人の手に渡してしまうようなものです。私たちのケースは、まさにこれに類似しています。私たちは、時が近づいていることを感じ、真実の勝利か、誤りと恐怖の支配のどちらかを選ばなければならないことを感じています。我々は、数人の選ばれた者を偉大な神秘（秘伝）に入れるか、あるいは、悪名高い詐欺師がヨーロッパの最高の頭脳を、最も狂気的で致命的な迷信であるスピリチュアリズムに導くことを許さなければならないのです。そして我々は、影の赤帽の兄弟から身を守る姿を見たい人々の手に、まるでダイナマイトを丸ごと一個送り込むかのように感じているのです。あなたは私がどこを旅しているのか知りたく、私の偉大な仕事と使命についてもっと知りたいと思っているのですね。私が話しても、あなたは何も理解できないでしょう。あなたの知識と忍耐力を試すために、一度だけですがお答えしましょう。私は今、

Sakkya-Jongから来ました。あなたにとって、この名前は無意味なままです。「代価」の前にそれを繰り返し、その結果を観察してください。しかし、戻りましょう。片方の手で、必要とされながらも危険な武器を世界に届け、もう片方の手で、詐欺師（彼らによって生み出される破壊はすでに計り知れない）を阻止するために、私たちにはためらい、立ち止まり、以前にはなかったような警戒の必要性を感じる権利があるとは思いませんか？ 要約すると、弟子による知識の誤用は、常にイニシエーターに影響します。また、自分の秘密を他人と共有することで、不変の法則によってアデプトは永遠の安息への自らの進歩を遅らせていることを、あなたはまだ知らないのだと私は思っています。おそらく、今お話しすることは、あなたが物事をより真に理解し、私たちお互いの立場をより良く理解するための助けになるでしょう。途中でぶらぶらしていると、旅の終わりに早く到着することはできません。そして、すべてのもの、すべての真実に対して、誰かが代価を支払わなければならないということは、真理としてあなたに響くはずです。私は自分の分け前を喜んで払いますし、質問してきた人たちにもそう答えました。私はあなた方を見捨てたりはしないでしょう。また、私たちが「老婆」と呼んでいる、哀れで疲れ果てた人間よりも、自己犠牲的でない自分を見せることもないでしょう。この件は私達２人の間に留めておいて下さい。この手紙は極秘扱いで、公表したり友人には渡さずあなただけに知っていて欲しいです。ただ、もしこのことが入門希望者に広く知れ渡れば、彼らはもっと感謝し、もっと我慢してくれるでしょうし、私たちの寡黙さや気まぐれさに苛立つこともないでしょう。あなたのような思慮深さを持っている人はほとんどいませんし、得られた結果の真価を評価することを知っている人はもっと少ないのです。……

　S.M.へのあなたの2通の手紙は何の結果も生まないでしょう。彼は動かず、あなたの苦労は無駄になってしまうでしょう。あなたは彼から疑惑に満ちた、少なからず不親切な発言を含む手紙を受け取ることになるでしょう。あなたは、+が生きている兄弟であることを彼に説得することはできません。その人は試され、失敗しました。あなたが彼を大衆的な顕教のラマ教に変えない限り、我々の「ビャンツヨブ」（Byang-tzyoobs）と「チャンチャブ」（Tchang-chubs）つまりある偉大なラマの体から別の人の体に移る同胞たちを「ラーたち」または実体のない霊と見なすのです。私が惑星霊の最後のところで言ったことを思い出してください。チャンチュブ（知識と魂の悟りの力によって、無意識の転生の呪いから免れた熟アデプト）は、肉体の死の後にだけ転生するのではなく、自分の意志と欲望でそうすることができ、もし彼が選ぶなら、生きている間に何度も転生することができます。彼は、この惑星であろうと他の惑星であろうと、自分のために新しい体を選ぶ力を持ち、古い形態を持っていますが、それは通常、自分の目的のために保存しています。『キウティー』（Khiu-tee）の書を読めば、これらの法則を見つけることができるでしょう。彼女は暗記で知っているように、あなたのためにいくつかの段落を翻訳するかもしれません。あなたは彼女に、現在のものを読むことができます。

私はよく「暗闇で手探りする無力な方法」を笑いますか？断じてしません。それは、政府が人々に英語を教えない地区で、ヒンドゥー教徒がピジン英語を話すのをあなたが笑うのと同じくらい不親切で、同じくらい愚かな行為です。どうしてそんなことを考えるのでしょうか。私の肖像画を撮ろうというのも、どうしてですか？「ガウデアムス」の時代に、旅回りの女流画家（最近、あなたがインタビューしたミュンヘンのビヤホール美人の親戚でしょう）が撮った哀れな鉄板写真で、私はその画家の手から救い出さなければならなかったのです。鉄板写真はありますが、画像そのものは消えています。鼻は剥がれ、片方の目はありません。他に提供できるものはない。私は決して約束を破らないから、あえて約束はいたしません。でも、いつかあなたに渡すために努力するかもしれません。

テニソン（訳注：英国の詩人）からの引用？本当に言えません。アストラル光の中で、あるいは誰かの脳の中で拾った迷子のようなセリフが記憶に残っているのです。私は一度見たり読んだりしたものは決して忘れません。悪い癖です。だから、よく無意識に、目の前にある百年前に使われたかもしれない、あるいは百年後かもしれない、まったく別の主題に関連した、迷った言葉やフレーズを文章に繋げてしまうのです。怠惰で本当に時間が足りません。「老婆」は先日、5行の文章を丸ごと使った私を「脳内海賊」「盗作者」と呼びましたが、これはワイルダー博士の脳から盗用したに違いないと確信しています。なぜなら、3ヶ月後、博士は予知能力に関するエッセイの中でそれを再現していたからです。この老哲学者の脳細胞は見たことがありません。北の海流のどこかで手に入れたのでしょうか。これは、あなたにとって新しいこととして、参考までに書いておきますね。このように、何千キロも離れた、母親とは何の関係もない、母親が見たこともない、しかしその浮遊するイメージが、睡眠中あるいは起きている間に母親の魂の記憶に刻まれ、母親が持っている感応した生きた肉の板に再現された、他人と非常に似た特徴を持つ子供が生まれることがあります。しかし私は、引用した文章は、何年も前にテニソンが書いたものであり、出版されているものだと信じています。私は、これらのバラバラの考察と説明が、9日間以上、馬から降りることなく、彼の鐙の中に残っていた人に許されるかもしれないことを望みます。ガラリン・チョウのラマ僧院Ghalaring-Tcho Lamasery（あなたの『オカルトワールド』が議論され、コメントされた場所）から、天はしるしを守る！と思ってもらえるでしょうか。私はホルパ・パ・ラ（Horpa Pa La）の領土、つまり「トルキ族の未踏の地」、そこに部族が全く存在しないという事実を知らないあなたの地図が言っている地に渡り、そこから家に帰ったのです。はい、疲れたので、これで終わります。

敬具

K. H.

10月、私はブータンに行く予定です。ロス・スコットと仲良くしてください。彼が必要なのです。